

イザヤ書52章7節 「良い知らせを伝える者の足」

1A 良い知らせ

1B 過ぎ去った神の怒り 51:17-23

2B 聖なる都 52:1

3B もとの座 52:2

4B 無代価の贖い 52:3-4

2A 足

1B 美しい足

2B 救いを告げ知らせる足

本文

イザヤ書 52 章を開いてください、7 節を読みます。私たちの聖書通読の学びは、今日は、51 章と 52 章を読みます。今朝は 52 章 7 節に注目します。「**良い知らせを伝える者の足は山々の上にあって、なんと美しいことよ。平和を告げ知らせ、幸いな良い知らせを伝え、救いを告げ知らせ、「あなたの神が王となる。」とシオンに言う者の足は。**」

キリスト教会は間もなく、復活祭を迎えます。3 月 27 日、二週間後ですが、不思議に私たちはイザヤ書において、最もキリストの働きが明らかにされているところを読んでいっています。主なる神が人となってこの世に来られたこと。そして、神の御心を知り、それを行ない、従われたこと。そして実に、死に至るまで従われたこと。それは私たちの罪のためだったこと。それから三日後に甦られます。これらのことが、今読んでいるイザヤ書の中に書き記されています。

今読んだところは、主なる神がシオン、エルサレムに来られたことを飛びあがって、喜んで人々に伝える人の足のことを話しています。ここの箇所を読むと、私たちは初めに良き知らせを伝えていった女たち、甦られたイエスに会った女たちのことを思いますね。女たちが、イエス様の墓のところに行き、石が転がしてあり、イエス様の体がなく途方にくれていました。そして、そこに光輝く二人の人がいました。それで、彼らが彼女たちに言いました。「ルカ 24:5-8 あなたがたは、なぜ生きている方を死人の中で捜すのですか。ここにはおられません。よみがえられたのです。まだガリラヤにおられたころ、お話しになったことを思い出しなさい。人の子は必ず罪人らの手に引き渡され、十字架につけられ、三日目によみがえらなければならない、と言われたでしょう。」それで、女たちはイエスのみことばを思い出しています。そして、彼女たちは、「24:9 墓から戻って、十一弟子とそのほかの人たち全部に、一部始終を報告した。」ここです、女たちの足が使徒たちのところに動いたのです。このとてつもない良い知らせを、自分たちのところで抑えることはできず、急いで弟子たちのところに戻ったのでしょう。

イエスの復活こそが、良き知らせ、福音です。こんなにすごい話はない、こんな喜ばしい話はないということで、一目散に伝えにいく人たちの足を美しいと言っています。私たちは、信仰生活を送っている中で、この喜びが減じてしまいます。これだどれだけ良い知らせなのか、そのすばらしさに慣れっこになり、忘れてしまうことさえあります。ヘブル書には、「もし最初の確信を終わりでしっかり保ちさえすれば、私たちはキリストにあずかる者となるのです。(3:14)」とあります。最初の確信をしっかり保つ、つまり神の救いの確信をしっかり保っていさえすれば、戻って来られるキリストにあずかることができるということです。

1A 良い知らせ

ここのイザヤ書の文脈の中で、何をもって良い知らせだったのでしょうか？時は、ユダヤ人がバビロンに捕え移されていた頃のことです。彼らは、自分たちの土地を失い、財産も奪われ、バビロンにおいて奴隷生活を強いられていました。それは、彼らが主なる神に逆らい、偶像を拝み、悪を行っていたからです。しかし、主が慰められます。主がご自分の怒りを取り除き、彼らの罪を赦し、彼らがバビロンから解放し、エルサレムを元に戻すと約束されました。

1B 過ぎ去った神の怒り 51:17-23

主が言われています。51章21節を見てください、「21-22節 それゆえ、さあ、これを聞け。悩んでいる者、酔ってはいても、酒のせいではない者よ。あなたの主、ご自分の民を弁護するあなたの神、主は、こう仰せられる。「見よ。わたしはあなたの手から、よろめかす杯を取り上げた。あなたはわたしの憤りの大杯をもう二度と飲むことはない。」主が怒りをユダの民に下された時に、それを「憤りの杯を飲みほした」と言われました。神が罪に対しての罰を与えられるその結果を、彼らは体の中に取り入れた、その衝撃を彼らが十分に受け取ったことを意味します。しかし、それをもう取り上げたのだと主は言われます。

良い知らせは、ここから始まります。罪に対する神の怒りが取り去られました。まず知らなければいけないのは、私たちは生まれながらに罪人で、霊的には死んでおり、神の怒りを受けるべき者だったということです。「エペソ 2:1-3 あなたがたは自分の罪過と罪との中に死んでいた者であって、そのころは、それらの罪の中にあつてこの世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者として今も不従順の子らの中に働いている霊に従って、歩んでいました。私たちもみな、かつては不従順の子らの中にあつて、自分の肉の欲の中に生き、肉と心の望むままを行ない、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。」

私たちは、罪を軽くみなしています。そのもたらす害がどのようなものか、罪を犯している者はなかなか気づきません。被害者はしっかりと覚えていますが、加害者は忘れてしまいます。ましてや、すべてを造られ、自分の命を造られた聖なる神に対して私が罪を犯すということは、神は私を罰せないままではできません。イエス様は、弟子たちにつまずきを与えることがいかに忌まわしいかを語られました。「マルコ 9:42-48 また、わたしを信じるこの小さい者たちのひとりにもつまずきを与えるような者は、むしろ大きい石臼を首にゆわえつけられて、海に投げ込まれたほうがま

しです。もし、あなたの手があなたのつまずきとなるなら、それを切り捨てなさい。不具の身でいの中にはいるほうが、両手そろっていてゲヘナの消えぬ火の中に落ち込むよりは、あなたにとってよいことです。もし、あなたの足があなたのつまずきとなるなら、それを切り捨てなさい。片足でいの中にはいるほうが、両足そろっていてゲヘナに投げ入れられるよりは、あなたにとってよいことです。もし、あなたの目があなたのつまずきを引き起こすのなら、それをえぐり出さなさい。片目で神の国にはいるほうが、両目そろっていてゲヘナに投げ入れられるよりは、あなたにとってよいことです。そこでは、彼らを食うじは、尽きることがなく、火は消えることはありません。」地獄の消えない火があります、そこに投げ込まれます。罪、つまずきは、容易いこと、軽々しいことではないのです。

しかし、主は、十字架に付けられる前夜、このように祈られました。「マタイ 26:39 わが父よ。できますならば、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの願うようにはなく、あなたのみこころのように、なさってください。」主が初めに願われた、取り去ってくださいと祈られた杯とは、神が罪と不正に対して注がれる怒り、憤りの杯でした。それを御子ご自身がご自分の体にお受けになりました。ご自身は何も罪を犯していないのに、身代わりに受けてくださいました。私たちが十字架に付けられたキリストを見る時に、自分の罪の重さを見ます。それと同時に、聖なる神が私たちに罪を負わず、ご自分の御子に負わせて、ご自分の中で罪を罰してくださった姿も見ます。私たちはこれだけ愛され、神に尊ばれています。

2B 聖なる都 52:1

神の怒りの杯を、神ご自身が取り除いてくださった、これが良き知らせの始まりです。そして主は、私たちを聖めてくださったことがあります。52章1節を見てください、「さめよ。さめよ。力をまとえ。シオン。あなたの美しい衣を着よ。聖なる都エルサレム。無割礼の汚れた者が、もう、あなたの中にはいつて来ることはない。」エルサレムを、聖なる都と呼んでいます。そして、もはや無割礼の汚れた者が入ってくることはない、と言っています。ちょうどそれは、清純な乙女が横暴な男に凌辱されていたような状態だったことを意味しています。エルサレムは、まず自分たちが偶像をこの町の中に、そして神殿の中にまで持ち込んで、自分自身を汚していました。そして、バビロンが神殿を破壊して、そこにある器をすべて持っていき、自分の偶像の神の宮の中に保管しました。このようにして、エルサレムは汚されました。しかし、主が全く清めてくださいます。やり直しをしてくださいます。美しく着飾ってくださると仰っています。

私たちは、心の中で、また行ないで行ったことによって、自分の純潔がなくなってしまったと悔いています。「エペソ 4:19 道徳的に無感覚となった彼らは、好色に身をゆだねて、あらゆる不潔な行ないをむさぼるようになっていきます。」結婚前のカウンセリングをする時に、恐れが出てくることがあります。それは、結婚後に夫婦関係を二人の間でしっかり守れるか、どうかという不安です。不安になる人は、自分の性についての自尊心が揺らいでいます。なぜなら、過去の他の男性あるいは女性と関係を持っていたからです。あるいは、他の形の不品行を行なっていたからです。このように、神の下されたものを、神の願われていること以外に用いることによって、私たちの尊厳が損なわれて、不安定になります。それは、性的なことに限りません。約束していたことを破ること、口

ぎたない言葉によって誰かを深刻に傷つけたこと。考えてもみなかった怒りや憎悪で自分を汚してしまったこと。他人のものを盗んだこと。いろいろあることでしょう。一度、こうした自分の内にある聖さを失ってしまったことは、ちょうど真っ白い服を赤いインクで台無しにしてしまったように、心の中に汚れとして残っています。

しかし主は、悔い改め、ご自身を信じる者を聖めてくださいました。御霊によって真っ白にしてくださいました。「イザヤ 1:18「さあ、来たれ。論じ合おう。」と主は仰せられる。「たとい、あなたがたの罪が緋のように赤くても、雪のように白くなる。たとい、紅のように赤くても、羊の毛のようになる。」思い出しますが、私が大学生の時にとても尊敬していたクリスチャンの先輩に相談事をしました。罪を犯したことを話したのです。彼は優しく、聖書を通してそれが確かに罪であることを示してから、それから祈ってくれました。人の前で自分の罪を告白することはとても勇気の要ることでしたが、彼は確信をもって祈ってくれました。それで、私の目からぼろぼろ涙が出てきました。彼は、「よし、学食で食べよう。」と言ってきて、それでご飯をいっしょに食べたのを思い出します。救いの喜びを取り戻しました。罪が洗い清められたことを心で一杯に感じていました。主は、私たちが美しい衣で着飾ってくださったのです。

3B もとの座 52:2

ですから良き知らせは、罪から引き離し、私たちが聖なる者としてくださった、聖めてくださったことがあります。そしてもとの座に戻してくださる約束もあります。次の2節を見てください。「ちりを払い落として立ち上がり、もとの座に着け、エルサレム。あなたの首からかせをふりほどけ、捕囚のシオンの娘よ。」塵を被って、地面に座っていたエルサレムが、今は、きちんと立ち上がって、元の座に着くことができるのだと言われています。元の座というのは何かと言いますと、イスラエルは神から「祭司」と呼ばれていました。「出エジプト 19:5-6 今、もしあなたがたが、まことにわたしの声に聞き従い、わたしの契約を守るなら、あなたがたはすべての国々の民の中にあって、わたしの宝となる。全世界はわたしのものであるから。あなたがたはわたしにとって祭司の王国、聖なる国民となる。」イスラエルが祭司の王国というのは、神と人とを仲介する、人々を神につなげる国になるということです。そして聖なる国民というのは、神のものにされている国民であります。ですから、神のものにされていることによって、人々が神に近づき、神のものになるように導くということでもあります。しかし、その尊厳や使命を彼は周囲の国々に売り渡しました。しかし、主はそれを取り戻してくださいました。

私たちの生活で、神の恵みによって与えられていた地位や財産、関係を自分の愚かさによって台無しにしたことがあるかもしれません。しかし主は、そこから回復し、大きな恵みを与えておられます。自分が神のものとなり、キリストにあって神の祭司となったことです。自分が主に仕えることによって、他の人が神を知ることができるよう人々に仕えることができるようになりました。そのような大きな使命を与えられたのです。

4B 無代価の贖い 52:3-4

そして次に、無代価の贖いという良き知らせがあります。「52:3-4 まことに主はこう仰せられる。「あなたがたは、ただで売られた。だから、金を払わずに買い戻される。」まことに神である主がこう仰せられる。「わたしの民は昔、エジプトに下って行ってそこに寄留した。またアッシリヤ人がゆえなく彼らを苦しめた。」イスラエルの民は、無代価で働かされていました。エジプトで奴隷となり、アッシリヤに捕え移されて奴隷となりました。したがって、主は、無代価で買い戻そうと言われます。つまり、これらの優れたものを、彼らに無代価で提供するということです。「ローマ 3:23-24 すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず、ただ、神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いのゆえに、価なしに義と認められるのです。」価なしに義と認められます。そして主は言われました。「黙示 22:17 渴く者は来なさい。いのちの水がほしい者は、それをただで受けなさい。」

恵みはただで受けるもの、ということほど、単純なことはありません。人は必ず、何かの対価を払って受け取りたいと願うからです。自分が何かをしないと受け取ることができません。それは自分のプライド、自負心が許さないからです。ただで受けなければいけないほど惨めな人間ではないと思っています。だから、恵みをもって受け取ることができません。しかし、神の恵みは、自分のほうも何か取り引きして受け取るのではなく、条件を付けずにそのまま受け入れる必要があります。そうでないと、恵みが恵みでなくなります。その一方で、多くの人が恵みを無駄にしています。それは、日本では駅前などで配っているティッシュペーパーを受け取る人々を見ると分かるでしょう。「これは役に立つ」と思って受け取りますが、感謝の念はありません。ただだと思つと、すかさず自分の得になるように受け取るのですが、そこにも恵みがありません。恵みを恵みとして受け取る時に、人はとてつもない、涙にあふれる喜びに満たされます。

あるアメリカの教会でのことですが、「人に喜んで施すようにしよう。」というテーマを牧師さんが決めました。説教もしたのだと思います。お昼の時間に近づきまして、ピザの配達を頼んでいました。そして配達に来た人を、説教壇のほうに連れてきました。自分たちが何について学んだかを短く伝えて、「これは、チップです。」と言って渡しました。アメリカには、サービスを受けるとチップを渡す習慣があるんですね。牧師さんは教会の人たちに、チップにするからねと言って、お金を集めていたのです。総額は、確か十万円近かったのです。彼女の目から涙がこぼれました。その牧師さんに抱き着きました。バイトをしながら、精一杯貯金していますが、とても金銭的に大変な生活をしてきたからです。これが恵みです。主がなされたことを精一杯受けることです。そこにある恵みは、自分自身をすっかり変えます。

2A 足

1B 美しい足

ですから、これらのことが良き知らせでした。そして、その良き知らせを伝えるその足は、「**なんと美しいことよ**」と言っています。足が美しいと言っているのです！足については、あまり私たちは美しさを競いません。モデルさんの美しさは、顔、上半身、もしかしたら下半身、脚のすばらしさとか

を競うかもしれませんが、足が美しいとは言いませんよね。当時も、足を洗うことは僕の仕事ですから、卑しいイメージが付きまといます。しかし主は、それは美しいと言われます。

パウロはこの箇所を、イエス様の名前によって救われるその知らせを伝える者について引用しています。「主の御名を呼び求める者は、だれでも救われる。」のです。しかし、信じたことのない方を、どうして呼び求めることができるでしょう。聞いたことのない方を、どうして信じることができるでしょう。宣べ伝える人がなくて、どうして聞くことができるでしょう。遣わされなくては、どうして宣べ伝えることができるでしょう。次のように書かれているとおりです。「良いことの知らせを伝える人々の足は、なんとりっぱでしょう。」(ローマ 10:13-15)主の名を呼び求めることによって、救われます。しかし、信じなければ呼び求めることができません。信じるためには、聞かないといけないです。そして、聞くことができるためには、その人のところまで神によって遣わされないといけません。ですから、良い知らせを伝える人の足は立派である、あるいは美しいと言っています。

どうかこれを、そのまま受け入れてください。良い知らせを伝える者の足は美しいのです。福音を伝えていますか？伝えるために、足を動かしていますか？トラクトを配ることもよいでしょう。友人、知人の人に、福音のことばを伝えることもそうでしょう。神の救いのために、足を使ってそこまで行くのです。

イエス様は、復活されて、女たちやマグダラのマリヤから、イエス様が復活されたことを聞いていたのにも関わらず、ユダヤ人を恐れて戸を閉めていた使徒たちのところに現われました。そして言われました。「シャローム。」『ヨハネ 20:21-23『平安があなたがたにあるように。父がわたしを遣わしたように、わたしもあなたがたを遣わします。』そして、こう言われると、彼らに息を吹きかけて言われた。『聖霊を受けなさい。あなたがたがだれかの罪を赦すなら、その人の罪は赦され、あなたがたがだれかの罪をそのまま残すなら、それはそのまま残ります。』』良い知らせを受け取った者の心はシャローム、平安です。そして、良い知らせを伝える者たちは、神の平安をその人たちに携えることでもあります。イエス様は、ご自身が父に遣わされたように、あなたがたを遣わすと言われます。そしてそのために、聖霊を下さいました。そして、罪を赦すことを神の權威によって宣言する権限、また受け入れない者には、罪が残るという大きな權威を任されました。

2B 救いを告げ知らせる足

そして、「**救いを告げ知らせ、「あなたの神が王となる。」とシオンに言う者の足は。**」とあります。バビロンという縄目、鎖が取れました。それが救いです。自分の罪という縄目、鎖が取り外されました。そしてバビロンが滅んだと同じように、私たちが虜にしていた悪魔は裁かれました。これが救いです。そして、その知らせには、「**あなたの神が王となる。**」という言葉があります。自分というものが、一番大きな縄目であり、重荷でしょう。自分自身が心の中で王座を占めているということが、最も自分を苦しめていました。しかし、神が王となってくださいます。その時に自分は自分から解放されます。神の自由の中に入れられます。